

「八木健の俳句を解剖する 2」

2008.12.25 (聞き手 高橋素

子)

高橋 それでは前回に引き続きまして、八木健会長に自らメスを揮って頂いて、ご自身の滑稽句を解剖し、そのわざを皆様にご披露して頂きたいと思います。

本日、最初に解剖をお願いする作品は・・・迷いますが・・・

やはりこれがいいですね。

★ 切り分けし西瓜の塔に種の窓

この句は「第七句集」の表紙になった会長の自信作のおひとつですね。季語の西瓜は夏かと思ったら、秋に分類されるのですね。

「童心は永遠なもの、いつも持ち続けたい」と、おっしゃっていらっしゃる会長が童心で感じたままを句にされたものとお見受け致します。

私はこの句を拝見して以来、切り分けられた西瓜を見ると黒い種の窓のあるビルディングに見えてきて思わず独りで笑っていますが・・・

こういう「童心の伝染」とでもいうのでしょうか？・・・（笑い）

会長 伝染でなく感染ですね。 というより共感でしょうか。

子供の時には誰もが一度は感じていながら、それを表現しないままになってしまっているということはたくさんあるのですね。私に童心が溢れているというのではなく、きっと童心を感じたままを表現できるということなんだろうね。

高橋 なるほど！

では、童心を感じたまま表現できるかできない

かの違いはどこにあるのでしょうか？

会長 童心を表現しようとする常識が邪魔するのですね。
頭脳の知的な回路も邪魔します。
童心は脊髄反射みたいなものでして、じっくり考えては駄目なんです。考えているうちに童心が色あせてしまうのです。

高橋 会長が常々「頭のいい人は俳句に向いてない」とおっしゃるのはそういうことなんですね。

会長 そこはちょっと誤解されると困るんですが、「いつでも童心にスイッチできる。」というのが理想的なのです。
常に知的でいるのではなく、必要に応じていかに天真爛漫に切り替えることができるか・・・カメレオンが体色を変化させるようにです。

高橋 カメレオンですか？言うは易く行うは難しですね。
では、次の句は、あっ！これがいいですね。

★ 自らを死体遺棄して油蟬

会長は俳句とは、「言葉のスナップ写真である」と常々おっしゃっていらっしゃいますね。
また俳句は「世界で一番短い詩」であるとも・・・

そうして詩とは「ああ」と「ふふふ」であると・・・

一匹の蟬が目の前で死ぬ瞬間を目撃されて「ああ！」と・・・小さな命の終わりのその瞬間に驚きと哀しみを感じられたのですね。

そうしてその感傷を言葉のスナップ写真である俳句に。

会長 この句はたしかにスナップ写真ではありますが、対象から受けたインパクトを正確に文字にするのに多少の時間をかけています。というのは、「死体遺棄」したかの如く誰かが放り投げたように見えるわけです。

死体遺棄は他動詞ですからね。
しかし、蟬は他殺じゃなく、夏の終わりには自ら死んでゆくわけですから、自らを死体遺棄・・・という複雑な表現になったわけです。こういう乾いた言葉遣いによる写生は、案外と哀しみをかきたてるものですよ。

高橋 そうですね、無常観みたいなものが伝わってきます。続けてよろしいですか？

★ 落ちてすぐ蟻が検死の油蟬

とお詠みですが、この落蟬のその後の残酷な運命とその亡骸にすぐに取り付く蟻の生命力のたくましさを目の辺りにされて、今度は、蟻の抜け目なさ、右往左往の慌てぶりに「ふふふ」という可笑しさを感じられたのですね。

「検死」という擬人的な言葉でこの句が素晴らしい精神活動の句になったという事でしょうか。こう言う言葉は言われて見ればなるほどと思いますが・・・

「コロンスの卵」同様に、自分ではなかなか思い付かなくて・・・

やはり発想の展開・転換は滑稽句の作句の上ではとても大切な事なのですね？

会長 写生の表現力は語彙の多寡の問題じゃないと思いますよ。

私たちが知っていることばだけで十分表現できるし、そのほうがよろしいのです。

矢鱈に難しい俳句らしい用語をもちだす方がいますね。あれはよくないです。それだけで俳句が古くなってしまいます。

自分が普段使っている用語だけで勝負すれば読者もわかりやすいから ついてくるはずです。

高橋 では、少し理屈っぽくなって来ましたので、次は恋の句を・・・
と、申し上げても人間ではなく紙魚ですが。
(笑い)

★ 窮屈をものともせず紙魚の恋

この句も初めてのインタビューで、会長ご自身が自信作のひとつにあげていらっしゃいますね。
劣悪な環境の中で、おそらく書物から得た恋愛術を駆使して素晴らしい恋のかけひきを・・・
とも。
ならば、人間も紙魚を先生にして・・・などと
考えていると楽しくなって来ますね。

ぱちぱち・・・拍手喝采です。

会長 童心を具体的に表現するには何にでも「？」マークをつけてしまうことです。

幼いこどもが、ある時期「なぜどうして」を連発することがありますね。紙魚もあの狭い書物で恋をして子孫を残すわけですから、考えてみれば他の生物と比較して遜色がないわけですよ
ね。

高橋 では、やはり人間も紙魚を見習って恋のかけひ

きを・・（笑い）その上、口語的表現が素晴らしいですね。

では、次に参りまーす。

★ 大根を地球と奪ひあつてゐる

本人は他人の目を気にするどころか、屁っぴり腰で一生懸命大根と戦っているのに、客観的に見れば確かに、大地（地球）と大根を奪い合っている様に見えるから不思議ですね。

ただの大根引きが視点を変えて見るとこんな面白い句に・・・うーん！これも脱帽です。

会長 大根は回しながら引き抜く。毛細根を切るとよ
ろしいのです。
掲出句は回し切りじゃあないから、なかなか抜
けない。だから句のような風景になるのです
ね。

高橋 では、次はちょっと視点を変えた句にしてみま
しょうか。

★ 文字通り丘を引きずる蚯蚓かな

うわー！確かにみみずと言う漢字は偏の虫とい
う字を取ると丘と引という漢字が残りますね。
文字からの面白い発見の句ですね。流石です。

会長 文字からなにかを発見して出来た俳句はかなり
たくさんありますよ。こういう文字を考えた人
も凄いなあと思いますね。

蚯蚓は暑さに耐え兼ねて地表に這い出してく
る。丘を引きずるように這う。それを文字にし
たのです。

文字を見ていてなるほどというのはいろいろあ
りますね。いとしいとしと言う心・戀・恋の古

い字はこんなふうに書きますね。

高橋 なるほど・・・いとしいとしと言う心ですか。
では、次の句にまいります。

★ とつくりのセーターを編む首っ丈

この句を見た時思わず笑ってしまいました・・・

彼女は心をこめて、首っ丈の彼のセーターを編んでいるところなのでしょう。

今、丁度とつくりのところを・・・首の丈の長さに・・・

一般に使われている俗語「首っ丈」を上手く句の中に取り込まれた句ですね。

会長も昔は経験がおありなのでしょう。

鼻の下を長くして待っていらっしゃったら、頭の出ない程細いとつくりのセーターを貰われたとか・・・（笑い）

会長 そういうのは 目だし帽にリフォームすること
にしています。（笑い）
この続きが最近できまして

★ セーターを編み上げ恋のをはりかな

高橋 まあヒドイ・・・では次は

★ 穴だけの眼に睨まれて目刺食ふ

科学的に考えれば、連ねられて乾され死んでいる鰯などの魚が睨む事などありえないのに、確

かに穴だけの眼で恨めしげに睨んでいる様な気が・・・

人の心に受けた印象を上手くお詠みになられた句ですね。

「俳句は非科学的で良いのです」とは会長のお言葉ですが、心と体が受け止めたインパクトを詠む俳句には確かに科学は不要なのですね。

会長 心に受けた印象・・・その通りです。
なにもない 空洞はまさに恨みの眼です。目刺を食べるときに、髑髏に睨まれているような感じがします。誰でも、罪を自覚したときに心に刑罰を受けるものです。

金子みすゞの世界ですね。鰯が人間になにかしましたか・・・ということなんです。人間は平気でヒドイことができる生物なのです。目刺からすれば睨んでも睨んでも睨み足りないということです。

高橋 人間の犯した罪を自覚して出来た句なんですね。
次は・・・やはり擬人化の童心に溢れた句を

★ 蟻同士何を話したのでせうか

確かに小さな子供の時私など、蟻と蟻が頭と頭を付き合わせてまるで話か相談をしているかのように触覚を動かしているのを見て不思議に思ったものですが・・・

科学的に言えばきっと美味しい餌のあり場所とか敵の居場所の等の情報を伝達しているのでしょうね。でも、そんな事ではなく今日の女王様のご機嫌とか、労働条件の悪さとかサボタージュの方法とかひいては雄蟻の噂話など話していると想像していると面白いですね。

働き蟻は生殖能力はないとは言え雌蟻ですか

ら・・・（笑い）。それにしてもこの様な童心を何時までもお持ちの会長には本当に頭が下がってしまいます。

会長 擬人化は誰にでもできる。以前 擬人化は対象と一体化したときにできると申しましたね。この句は一体化したあと、客観的に対象を眺めてできたのです。

つまり擬人化は、一体化したのちに、客観写生をするとよろしいのです。
一体化しただけで何か言うよりも、もう一度引いて、客観写生することで説得力が生まれるのです

高橋 なるほど・・・「秘伝の技」をまたまた教えていただきました。あら、またもうこんなお時間！
今回もこの十句めで終わりになってしまいました。では、おしまいやはり新しい年を迎えるに当たりましてこの句で

★しまひにはからまれてゐる初電話

新しい年を迎えて「今年もよろしくお願い致します。」とにこやかに始まった話のはずが・・・相手が御屠蘇のほろ酔機嫌のためか御屠蘇の名のもとに酔っ払っているのか、言葉尻を取られて思わぬ方向に話が・・・そうして遂にはからまれて・・・構成を裏切る句ですね。

会長にもこんなが経験が？

会長 私は「からむ」側です(笑い)
まあご想像にお任せしましょう。

これは結果としてこうなったのか。はじめから絡むつもりで前半は社交辞令で明るくふるまっ

たのか。いろいろ想像できます。いずれにしても高橋さんの分析のように裏切り構成です。思いがけない展開にドラマがある。そういう意味では良くできた句です。

もともと俳諧ですから 紳士淑女を描いても可笑しい句にはならない、下世話だからこそ、可笑しいのです。

高橋 今年は丑年・・
モーウ！
今年こそ、こんな羽目に陥られませんか！
相手をギュウ！（牛）と言わせて・・・（笑い）
「モーウ、たくさん！」と言われる程のご多幸
とご活躍お祈りしております。

会長 「ウシシ」と笑える年にしたいですね。

（2009年 1月号）